

1. 防災に関する国民運動を誘発し、継続できる環境の整備  
 リスクと対処法の認知の両者を向上させる
  - ・リスクの認知 実態を知る、知らせる環境の整備
  - ・対処法の認知 具体的な対策法の提示と効果の科学的な説明
 良心に訴えかけるだけではだめ、損得勘定、ビジネス展開
  
2. 災害イマジネーション能力の向上  
 防災教育の位置づけ：災害イマジネーションの基礎作り  
 (EX 子供時代の教育：食品教育と生活習慣病の予防、医療費の軽減)  
 「目黒メソッド・プチ目黒メソッド」、「目黒巻き」ワークショップ
  
3. 危機管理/防災情報ステーション  
 下の3システムを3次元都市GIS環境をプラットフォームとして連結
  - ・災害情報の創造(ユニバーサル災害環境シミュレータ)
  - ・災害情報の維持管理(新しいスタイルの災害情報アーカイブ)
  - ・わかりやすい災害情報の発信と収集(E-ラーニングシステム)
 教訓/経験の共有、状況別対応能力の向上  
 (災害情報の適切な料理法、イメージ可能な範囲/状態にするために)  
 災害情報プラットフォーム：誰が、いつ、何を、どんな目的で使うのか？  
 求められる内容と質(精度)
  
4. 最重要課題としての「既存不適格建物」の問題を例にとれば  
 耐震性偽造マンションは非常に重要で、またとても残念な問題だが、数を考えると・・・  
 耐震改修や建替(住替)が進展しない理由
  - ・重要性の理解不足(災害イマジネーションの欠如)
  - ・技術と制度
    - 技術(高性能でも、高価ではだめ)
    - (安価、ただし安過ぎない)
    - (信頼性が高い、多様なメニュー)
    - 制度(やった人が得をする)
    - (信頼性の担保、安心感)
  
5. わが国を対象とした場合の推進策は？  
 現在志向されている「行政の事前準備金による推進策」も  
 「事後の手厚い被災者支援策」もダメ  
 目黒の3点セット：「公助・共助・自助」のすべてに貢献  
 「自助」を誘発しない「公助」や「共助」制度は防災に貢献しないだけで  
 なく多くの無駄を生む
  - ・「公助」事前の自力による耐震改修世帯を対象とした公的事後支援
  - ・「共助」耐震改修世帯を対象としたオールジャパンを対象とした共済制度
  - ・「自助」耐震改修建物を対象とした地震時火災のみを対象とする地震保険
 責任あるビジネスの地元への誘導、日本人の住まい感の改革、住宅の品質管理  
 国民の1人1人が自由意志で、被害を減らす方向に動き出す環境・制度をまず整備する  
 自助努力したが、それでも被災した人を手厚く支援することが、災害時の被害を大幅に軽減し、  
 市民と公の両者の支出の大幅な軽減を実現する。

**忘れてはいけない視点：**

情と理：防災に情は必要であるが、その原資が公のものであるなら、正当な理屈が必要。  
 一見(短視眼的・ローカルに)よさそうに見えても、真にオールジャパンで、長期的にまかり  
 通るシステムか？ 納税者に説明責任を果たせるか？